

第3回奈良県地域福祉推進計画策定委員会 議事録

開催日時：令和4年1月31日（月）14時00分～

開催場所：ホテルリガーレ春日野 飛鳥の間

出席委員（敬称略 50音順）

岡本 雄嗣、金田 喜弘、小林 照代、辻村 泰範、中 幸司、永田 祐、
中村 秀雄、宮本 美紀子、八木 三郎、横井 扶紗

1. 福祉医療部長挨拶

2. 議事

(1) 第2回奈良県地域福祉推進計画策定委員会でのご意見・対応案について

(2) 奈良県地域福祉計画（案）について

・事務局から資料に基づき説明した後、各委員から、下記の意見等があった。

No.	項目	意見の概要
1	全般	・パブリックコメントがなかったことについて、手法等に改善が必要。 HPに掲載するほか、紙媒体等を用いる方法もある。 ・パブリックコメントで示した素案から内容が整理され、形が変わった部分もあり、今後、計画の考え方を丁寧に説明していく必要がある。
2	全般	・新型コロナウイルスの感染拡大後、思いやりが少なくなっているように感じる。支え合う意識が希薄化している。
3	全般	・「県の基本的な役割」の中に記載されている内容を実現するためには、マンパワーが必要。
4	全般	・県と社協が連携して施策を進めることが大事。
5	全般	・相談支援包括化推進員を市町村で配置するにあたり、財政的支援があれば良い。
6	全般	・社会福祉の分野は多岐に渡り、簡単に解決できない問題が山積している。計画の推進にあたり、県と地域の連携を強固にしてもらいたい。
7	全般	・市町村の首長への説明等を通して、県と各市町村とで「福祉の奈良モデル」の推進に向けた連携をしっかりとってもらいたい。

No.	項目	意見の概要
8	全般	・県の計画は方向性を示す設計図、市町村はそれに沿って道路をつくるようなもの。計画の策定後に、市町村がつくる道路がどのようにできあがるか、それを使う住民がどう感じるかをしっかりと確認し、見直すことが重要。
9	全般	・計画の実践の中で出てくる幅広い課題に対して、中間見直しの段階で、「福祉の奈良モデル」の方向性等を含めて反映させることが重要と考える。策定委員会の委員の意見のほか、実際に福祉事業を行う関係団体の生の声を捉えて、しっかりと対応することが大事。
10	全般	・「奈良県人と人及び人と社会がつながり支え合う地域福祉の推進に関する条例」と一体で計画を進めていくにあたり、市町村や県民に丁寧に周知を図ってほしい。
11	『「福祉の奈良モデル」の構築』の図	・計画の中の『「福祉の奈良モデル」の構築』の図については、丁寧な説明が必要。取組の土台は地域にあることが伝わるようにすると良い。 ・「困りごとを解決に導く具体的な仕組み」の活用に向けては、市町村や社協にどのように理解を深めてもらうか考える必要がある。
12	バリアフリーの推進	・おもいやり駐車場制度の仕組みができて、社会に浸透しておらず、理念と現実が乖離しているのは問題。制度があることを周知徹底することが最優先。 ・最近では自助に力点が置かれ、人との関係性が希薄化している。地域福祉計画は共助の重要性についても一石を投じるもの。共助なしにこの社会は成り立たないということを浸透することが重要。

・今後のスケジュールについて事務局から説明

(以上)